Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2016, Vol.25, 289-296

報 告

教育学部教職支援室の活動報告（1）

森　藤　悦　子［鹿児島大学教育学部教職支援室］
迫　田　孝　志［鹿児島大学教育学系（教育実践総合センター）］

A report on the activities of a teaching profession support room (1)

MORIFUJI Etsuko・SAKODA Takashi

キーワード：全学対応、教員採用試験対策、キャリアカウンセリング、連携

Ⅰ．はじめに

本学では平成19年度より、全学対応の教職支援室を設置している。平成22年度から24年度の特別教育研究費事業期間は、教育学部対応の教職キャリアガイダンス室も併設したが、平成24年度に教職支援室に一本化された。

Ⅱ．教職支援室業務実施状況

１．支援体制

教職支援室は特任専門員１名、週21時間の勤務体制で教職に関する支援を担当している。特任専門員は、小学校、特別支援学校等での勤務や海外での生活経験があり、上級教育カウンセラー、学校心理士、臨床発達心理士の資格も有している。

全学の教職を希望する学生のニーズに応じた相談や指導を行っている。相談等は無料であり、実施する場所は、主に教育学部管理・理系研究棟学生支援ゾーンの教職支援室である。相談は原則として予約制であるが、メールでの相談や飛び込みの相談も状況に応じ受け付けている。

２．支援活動の状況

⑴　利用回数

何らかの支援を求めて、教職支援室を利用した学生の月別利用回数を示したのが、表１と図１である。平成24年度と25年６月までは週19時間、25年７月から26年１月までは、週８時間、26年２月、３月は週18時間、26年度は週19時間体制であった。週21時間体制になったのは27年度からである。利用回数が26年度は、25年度の約４倍と激増している。これは、25年途中で特任専門員が交代したことも影響しているのではないかと考えられる。27年度の前期も26年度前期と比較して103回増加している（表６より）。わずか週２時間の対応時間の増加ではあるが、利用しやすくなったことや支援員が非常勤講師として講義も行っているため、教職支援室の存在が広く認知されてきたためであると考えられる。27年度は、４月から８月末まで予約で受け入れ可能上限まで達した。

各年度における学部別の利用回数を示したものが表２と図２である。教育学部の学生の利用がどの年度も多いが、特に26年度から大きく増加している。他学部の利用もわずかではあるが、増加している。

表３と図３は、26年度･27年度の学部別の割合を示している。

教育学部が最も多いが、26年度は法文学部の９％をはじめ他学部も22％を占めている。

表４と図４は、教育学部生の利用回数の変移である。前期は４年生の利用が多く、後期は、３年生の利用が多い。26年度から教育学部生に対して

表１　月別利用回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24年度	5	19	8	6	37	10	10	2	5	2	2	0	106
25年度	3	5	1	5	8	3	5	9	10	11	20	12	92
26年度	24	48	23	30	32	13	35	28	33	57	33	16	372
27年度	**37**	**46**	**53**	**75**	**46**	**16**							273

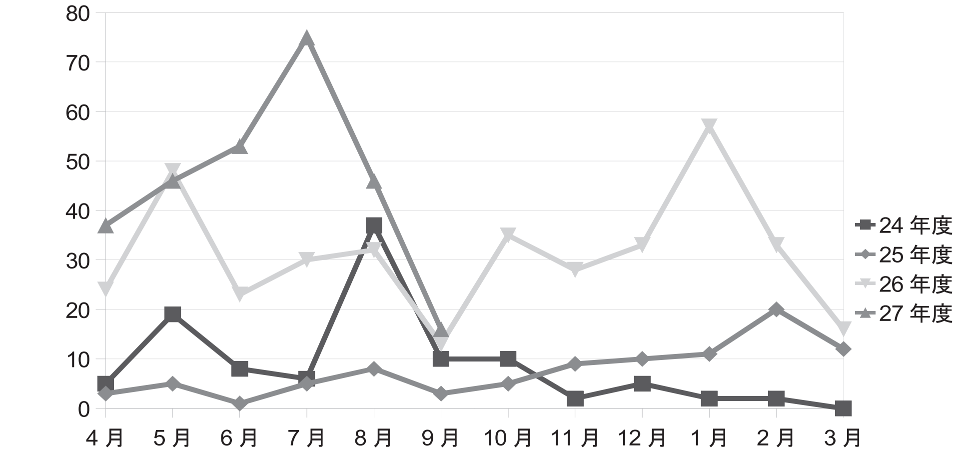

図　1　月別利用回数

表２　学部別利用回数

	教育学部	法文学部	理学部	工学部	水産学部	農学部	医学部	計
24年度	82	2	3	2			17	106
25年度	69	10	9	3		1		92
26年度	292	33	18	23	2	4		372
27年度(4～9月)	224	8	13	4	4	20	0	

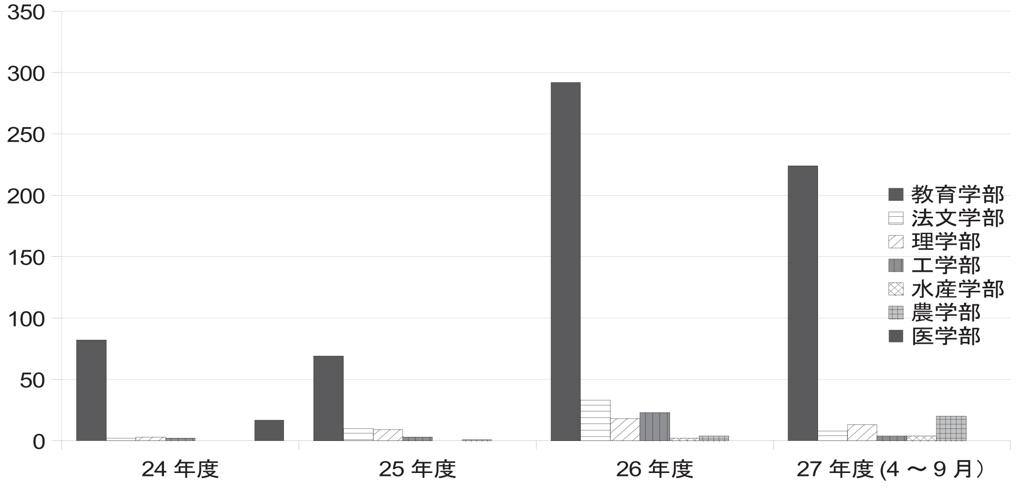

図2　学部別利用回数

表３　学部別利用者割合

	教育	法文	理	工	水産	農
26年度	78%	9%	5%	**6%**	**1%**	**1%**
27年（前期）	82%	3%	5%	1%	1%	7%

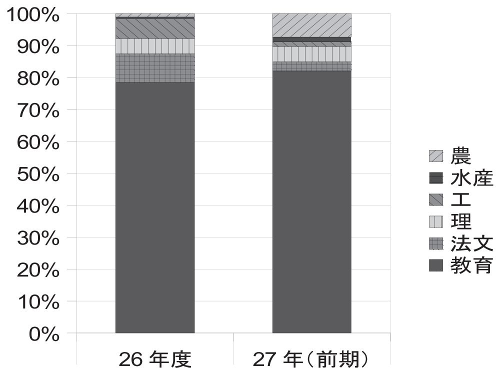

図３　学部別利用者割合

表４　平成26年〜27年9月　教育学生における利用回数

26年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1年			1				1											
2年									3	2								
3年	2	13	2	2			15	20	20	25	20	4		2		1		
4年	7	24	14	22	26	2	10	3	3	21	6	9	26	27	46	55	36	10
院生					1					1			2	2	4	7	4	
既卒						2				1							2	
科目履修	3	1	2	2			1			1								
	12	38	19	26	27	4	27	23	26	51	26	13	28	31	50	63	42	10

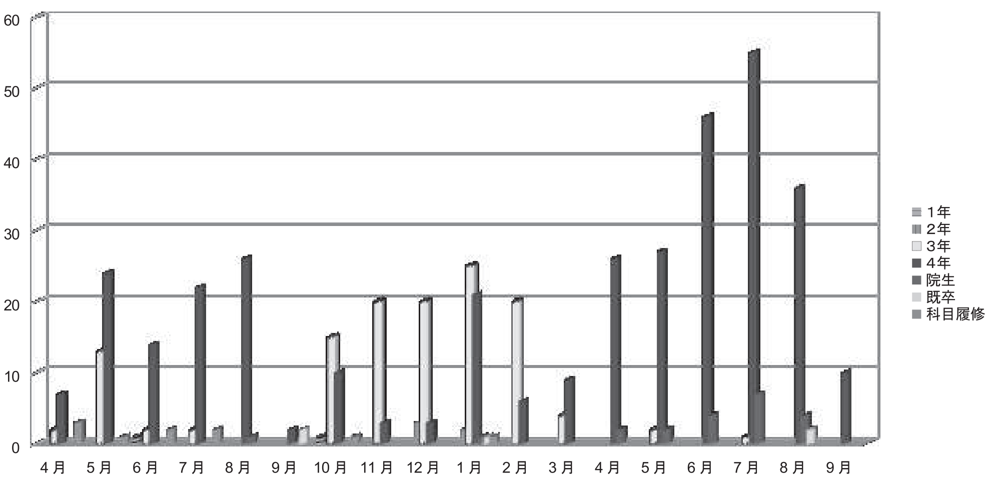

図4　教育学部生における利用回数

は、新入生オリエンテーション、教員養成基礎講座での講話、就職セミナーなどで教職支援室の紹介をしてきた。５月は教員養成基礎講座後、10月の就職セミナー後から３年生の利用が増加した。また、学生係の電光掲示板でのＰＲも授業に来た他学部生の目に止まり来室した学生もいた。

このことから教職支援室の紹介を頻繁にしたことが利用回数の増加につながったものと考えられる。継続して相談助言を希望するリピーターも増え、そうした利用学生が友達を連れてきたり、紹介されたり、口コミで来室したりする学生も多くなった。

表６は、26年度、27年度前期の月別・学部・学年別の利用回数を示している。

⑵　支援内容

主な支援は相談であるが、コンサルテーションやコーディネーション、情報収集として資料の選択や準備、貸し出しも行っている。表５－１，表５－２は、その内容である。

①　学生の相談･キャリアカウンセリング

（ア）教員採用試験に関する相談

最も多いのが、教員採用試験に関する相談であり、26年度は64％、27年度前期では、前期利用の86％を占めている。前期は、４年生の利用が多く、相談内容は、自己申告書や願書の書き方や添削、論作文の添削、面接対策である。

26年度の反省から27年度は相談に来た４年生に一次試験合格後にあわてないよう早くから自己分析を行い、自己ＰＲ書や自己申告書等に取り掛かるよう指導した。その結果26年度は、前期14回であった自己ＰＲ書や自己申告書等の書き方の相談や添削依頼が27年度は95回に増加し、約７倍になった。また、面接対策の相談も４月から取りかかる学生もおり、６月からは増え始めた。一次試験前であるにも関わらず７月は44回の利用があり、筆記試験対策より多かった。27年度は学生の教員採用試験の二次対策が早くから動き始めたと考えられる。特に８月は、中旬以降一次試験合格者の面接対策が多く、駆け込みの二次対策者のために、予約をしていたリピーターの面接対策希望者や他学年の学生に枠を譲ってもらうことも多く、調整が大変であった。

後期は教育実習も終わった３年生が本格的に教員採用試験に向かい始める時期になるために、26年度後期は、採用試験一次対策の相談が多かった。「何から手をつけて良いか分からない」という学生には、受験する都道府県の採用試験に沿って計画を一緒に立てるところから始めた。また、学習に不安のある学生は支援室での自習も受け付けた。自信を持って受験勉強ができるようになると、学部内で落ち着いて採用試験の学習ができる場所が欲しいという学生の要望もあり、採用試験用自習室として、学生係と連携し303号室を学習室として確保した。他学部生も使用可とした。落ち着いて学習できるよう登録制にした。自習室で学習する間に、学部を越えてコミュニケーションが取れるようになり、集団討論の練習を一緒に行ったり、他学部生の苦手とする教職分野を教えたり、教育学部生の苦手な理系科目を教えたりして、一緒に高め合う姿も見られた。

３月は私立学校の採用試験の対策を行い、２名が私立学校に採用された。また、臨時採用内定者への学習指導相談も行った。

（イ）日本人学校教員希望者からの相談

27年１月は、在外の日本人学校派遣教員の第２期応募者への面接選考があったため、日本人学校校長経験者にボランティアで来ていただき、希望者に対し日本人学校に関する学習会並びに模擬面接会を主催した。参加した学生のうち２名が合格し香港とハノイに赴任した。

（ウ）進路選択に関する相談

進路選択に関する相談も21％あった。「教師になりたいが、本当に自分が教師になっていいのだろうか」と自信を失いかけている学生や教職か一般企業かで悩み、相談に来る学生も多かった。職業選択の参考にしてもらえるよう教師の仕事の内容や魅力、やりがいなどを具体的に伝えるようにした。学校種や受験地区の相談もあった。厳しい鹿児島県の採用現状をふまえ、他地区の受験を勧めることもあった。それぞれ学生の悩みに寄り添いながら、進路選択の支援を行った。

（エ）　集団討論に関する相談

集団討論の方法を知りたいという３年生の希望

を受け、教員採用試験合格者の協力を得て、集団討論のデモンストレーションを実施した。その後、学生による集団討論の学習会を立ち上げられるよう他学部も含め、希望者に連絡し、各学科の世話役を決めたり、必要な書類や文具を揃えたり、学習会への紹介などの支援をした

（オ）その他の相談

教職の相談の回を重ねるとその他の相談もしてくる学生もいる。学生の悩みにはなるだけ寄り添い、教職に向けての学習に集中できるよう支援した。

② 情報収集

学生のニーズに応じて予約段階で分かっているものに関しては、できるだけ資料や本の準備をして対応した。また他の部署との連携を深め、情報を提供できるようにしている。

（ア）会計係との連携

・鹿児島県や近隣の県、受験者の多い地区の過去問、参考書、月刊誌「教職課程」その他教員採用に必要な本など購入して頂いている。

（イ）教務・学生係との連携

・電光掲示板でのＰＲ、学習室確保や免許取得、講座の紹介、模擬試験や採用説明会のお知らせ等採用に関する情報を届けて頂いている。

（ウ）教育学部附属教育実践総合センターとの連携

・「教員養成基礎講座 Ⅰ」において，教職支援室の役割や、経験談等を紹介しながら「教師をめざす皆さんへ（教師の魅力とは）」という演題で特別講義を行った。

・教員採用試験対策については、論作文添削や面接指導・集団討論指導など連携して指導した。

・日本人学校教員希望者への学習会も共同で計画し連携して対応した。

・鹿児島県総合教育センターの講座の紹介、学生ボランティアなどについて教職希望学生に広く紹介し学生の学ぶ機会の充実に努めている。

・「現職教員とのフリートーク」を企画し、実践センターの先生方と現職派遣の大学院生に参加していただき、学生の質問への対応や現場の生の声を聴かせて頂いた。

（エ）就職支援センターとの連携

・幼稚園や私立学校等の求人票等を届けて頂いている。

Ⅲ　おわりに

平成22年度から24年度の特別教育研究費事業において平成22年度の「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」（教育実践フォーラム2011）で三重大学の渡辺三枝子先生が「教員養成とキャリアガイダンス」という講演をされている。その中で教育学部生へのキャリアカウンセリングの必要性を次のように述べられている。

「一対一の面接をむしろ教育課程の中に組み込んでいただいて、『やっぱり自分は教職に行くのか？』『行くに当たって、どういう垣根がありどういう思いでいるのか』『現実をどれだけ見られているのか』という個別指導を入れていただけると、学生は卒業してからの準備として役立つのではないかと思います。」

教職支援室の支援員の役割もそこにあるのではないかと考え、一人でも多くの学生に教職支援室を利用してもらうべく平成26年度から積極的に教職支援室の紹介をしてきた。その結果、利用が増加したと考えられる。今後もポスターを作成し，学部内外に掲示し、新入生オリエンテーションや就職ガイダンス、教員養成基礎講座、講義などを利用し学生に教職支援室を紹介していく。紹介の場を持った後は，支援室を訪れる学生が増えることから，今後も支援員が学生と直に接する機会を持ち、安心して相談できる体制を整えておくことが重要である。課題としては、他学部にも教職希望者がいるので、全学対応の支援室として、大学や学部のホームページ等で教職支援室の存在を示していくことが挙げられる。そうすることで他学部生の支援もさらに可能になるのではないかと思われる。

進路問題、職業選択と学生にとっては、一生を左右しかねない問題であり、丁寧な対応と準備が必要である。そのため学生との面談は、ほとんど授業の１コマに相当する90分を充て、その後に記録しているが、８月など相談希望が多い場合は、

表5－1　平成26年度利用内容別のべ回数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期計	**総計**	計	割合	割合
1 受験対策	1対策全般	10	12	4	5		2	33	22	24	25	16	4	2	93	**126**			27%
	（自習）						（1）		（9）	（13）	（10）	（7）			0	**0**			0%
	2書類点検		4	2				6					1		1	**7**			1%
	3自己申告書等添削	1	8			4	1	14							0	**14**			3%
	4小論分・論文添削	1	5	6	8	2		22							0	**22**	302	64%	5%
	5面接対策（模擬面接含む）	1		4	15	31	8	59	1	2	1	11	2	5	22	**81**			17%
	6模擬授業（指導案含む）				1	2		3							0	**3**			1%
	7集団討論	2	7	3		2		14			3	10	22		35	**49**			10%
	8質問対応							0							0	**0**			0%
2 進路	1免許取得	1	5	3	1			10			4		1		5	**15**			3%
	2進路相談	6	1	2	2		1	12		3	6	6	1		16	**28**			6%
	3受験地区・校種選択	2	3	1	1			7	4		2	8	1		15	**22**	98	21%	5%
	4臨時採用	1			1			2				1	2	1	4	**6**			1%
	5教職全般	7	2					9				1	2		3	**12**			3%
	6私立・日本人学校							0		1		13	1		15	**15**			3%
3 その他	1指導法		2				1	3				1	1	5	7	**10**			2%
	2卒論	1					1	2							0	**2**			0%
	3教育実習						1	1							0	**1**			0%
	4幼稚園							0	1						1	**1**			0%
	5ボランティア							0				1	1		2	**2**			0%
	6悩み	1	1	1				3	1	1	1	4			7	**10**	70	15%	2%
	7報告				2		1	3	7			9	2	3	21	**24**			5%
	8介護等体験							0							0	**0**			0%
	9その他		4					4				1			1	**5**			1%
	10　フリートーク							0	15						15	**15**			3%
	計	34	54	26	36	41	16	207	51	31	42	82	41	16	263	**470**	470	100%	100%

表5－2平成27年（4月～9月）内容別相談のべ回数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計	計	割合
1 受験対策	1対策全般	10	6	7	13		2	38		
	（自習）							0		
	2書類点検	1						1		
	3自己申告書等添削	16	26	17	13	19	4	95		
	4小論分・論文添削			3	12	6		21	306	86%
	5面接対策（模擬面接含む）	17	11	26	44	42	8	148		
	6模擬授業（指導案含む）							0		
	7集団討論	1		1		1		3		
	8質問対応							0		
2 進路	1免許取得	1	1					2		
	2進路相談	1	2		2	1	3	9		
	3受験地区・校種選択	1						1	20	6%
	4臨時採用				1			1		
	5教職全般							0		
	6私立・日本人学校		4		2		1	7		
3 その他	1指導法						1	1		
	2卒論				1		2	3		
	3教育実習							0		
	4幼稚園							0		
	5ボランティア							0	29	8%
	6悩み							0		
	7報告	1			4	5	3	13		
	8介護等体験							0		
	9その他		1	6	5			12		
	10　フリートーク							0		
	計	49	51	60	97	74	24	355	355	100%

表6 平成26年度·27年度(4～9月) 月別·学部·学年別 利用回数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期計	総計	割合		4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計	割合
教育学部	1年			1				1	1						1	2	1%	1年							0	0%
	2年							0			3	2			5	5	1%	2年							0	0%
	3年	2	13	2	2			19	15	20	20	25	20	4	104	123	33%	3年		2		1			3	1%
	4年	7	24	14	22	26	2	95	10	3	3	21	6	9	52	147	40%	4年	26	27	46	55	36	10	200	73%
	院生					1		1				1			1	2	1%	院生	2	2	4	7	4		19	7%
	既卒						2	2				1			1	3	1%	既卒					2		2	1%
	科目履修	3	1	2	2			8	1			1			2	10	3%									
	計	12	38	19	26	27	4	126	27	23	26	51	26	13	166	292	78%	計	28	31	50	63	42	10	224	82%
法文学部	1年	6	4				1	11	2						2	13	3%	1年							0	0%
	2年							0							0	0	0%	2年	3	4					7	3%
	3年							0			3				3	3	1%	3年				1			1	0%
	4年	2				3	6	11	2	3		1			6	17	5%	4年							0	0%
	院生							0							0	0	0%	院生							0	0%
	既卒							0							0	0	0%	既卒							0	0%
	計	8	4	0	0	3	7	22	4	3	3	1	0	0	11	33	9%	計	3	4	0	1	0	0	8	3%
理学部	1年	1						1							0	1	0%	1年	1	1					2	1%
	2年							0							0	0	0%	2年							0	0%
	3年		2	1				3				2			2	5	1%	3年							0	0%
	4年	2	2			2		6			1	1	3	1	6	12	3%	4年	1	2	1	3	3		10	4%
	院生							0							0	0	0%	院生							0	0%
	既卒							0							0	0	0%	既卒	1						1	0%
	計	3	4	1	0	2	0	10			1	3	3	1	8	18	5%	計	3	3	1	3	3	0	13	5%
工学部	1年							0							0	0	0%	1年							0	0%
	2年							0							0	0	0%	2年							0	0%
	3年				3		2	5	4	2	3	2	3	2	16	21	6%	3年						2	2	1%
	4年							0							0	0	0%	4年		1					1	0%
	院生			1				1							0	1	0%	院生					1		1	0%
	科目履修		1					1							0	1	0%	既卒							0	0%
	計	0	1	1	3	0	2	7	4	2	3	2	3	2	16	23	6%	計	0	1	0	0	1	2	4	1%
水産学部	1年							0							0	0	0%	1年							0	0%
	2年							0							0	0	0%	2年							0	0%
	3年			1				1							0	1	0%	3年							0	0%
	4年			1				1							0	1	0%	4年		2		2			4	1%
	院生							0							0	0	0%	院生							0	0%
	既卒							0							0	0	0%	既卒							0	0%
	計	0	0	2	0	0	0	2							0	2	1%	計	0	2	0	2	0	0	4	1%
農学部	1年							0							0	0	0%	1年							0	0%
	2年							0							0	0	0%	2年							0	0%
	3年	1	1					2					1		1	3	1%	3年		1	1	1			3	1%
	4年				1			1							0	1	0%	4年	3	4	1	5		4	17	6%
	院生							0							0	0	0%	院生							0	0%
	既卒							0							0	0	0%	既卒							0	0%
	計	1	1	0	1	0	0	3					1	0	1	4	1%	計	3	5	2	6	0	4	20	7%
総計		24	48	23	30	32	13	170	35	28	33	57	33	16	202	372			37	46	53	75	46	16	273	100%

60 分単位で行うことも多くあった。それでも予約を断ることもあり、現在の勤務状況では時間の調整が困難であった。今後の課題である。

　教職支援室を利用する学生は、教職への志望意欲が高く、相談や面接指導等へのニーズも高い。その相談内容も多岐にわたっている。それらに対応していくためには、学内の就職委員会をはじめ、いろいろな部署の方々との連携も重要である。そのためには、いろいろな部署の方々とのコミュニケーションをどのようにとっていくかが課題である。

　今後はさらに他の部署との連携を図り、利用者の合否や進路等を分析していく必要がある。
また、教職支援室の大学における位置づけと学生のニーズの分析やキャリアカウンセリングなど支援の在り方を考える必要がある。

引用文献

鹿児島大学教育学部「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」平成 22 年度中間報告書　p46

鹿児島大学教育学部「教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用」平成 24 年度中間報告書　p15